

# 第4回日本モビリティマネジメント会議 4th JCOMM



## クロージング



JCOMM実行委員会・幹事長  
一般社団法人JCOMM・専務理事

藤井 聡 （京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻）

# 第4回JCOMM



- 主 催:一般社団法人 日本モビリティ・マネジメント会議
- 共 催:大分県・(社)土木学会
- 特別協賛:(財)大分県自動車会議所・(社)大分県バス協会  
九州旅客鉄道(株)大分支社

## ■後 援:

環境省 国土交通省 別府市 朝日新聞社 大分合同新聞社  
西日本新聞社 日本経済新聞社大分支局 毎日新聞大  
分支部 読売新聞西部本社 (財)運輸政策研究機構 (財)  
大分県自動車会議所 (財)計量計画研究所 交通エコロジー  
モビリティ財団 (財)国土技術研究センター (財)道路空間高  
度化機構 (社)日本バス協会 (社)日本民営鉄道協会  
(社)日本道路協会 (社)大分県バス協会 (社)建設コンサル  
タツ協会 (社)交通工学研究会 (社)国際建設技術協会  
(社)システム科学研究所 (社)北海道開発技術センター  
NPO法人 ITS Japan NPO法人 自転車活用推進研究会  
NPO法人 日本サイクルラック協会 一般社団法人自転車駐車  
場工業会 (以上28団体)

# 発表・申し込み件数



- 発表本数: 70本
  - うち、ポスター数: 51本, 口頭数: 19本)
  - うち、行政: 27名
  - 民間・NPO: 10名
  - コンサルタント: 22名
  - 大学: 11名
  
- 参加者数約270名 (事前235名 + 当日約35名)
  - うち、行政: 81名
  - 民間/NPO/事業者 34名
  - コンサルタント: 59名
  - 大学等: 59名



第四回 日本モビリティ・マネジメント会議



ようこそ、  
大分へ



# 今回の議論(そのごく一部 その1)



## ①地方中小都市におけるMMに重要なことは. . . .

- ・コミュニケーションの「こころ」
- ・エンジニアリングのセンス (=データをよく見る, サービスレベルの改善)  
→ コミュニケーションが「原因」で電車・バスの乗客数が、**実際に増える!**

## ②「健康」というテーマをもっと重視しては?

- ・「健康」は環境について, 一般の方の関心が高い!

## ③きちんとした「チーム」と「目的意識」があれば, 「必ず」MMは成功する!

～南山大学のとり組み(プロジェクト賞受賞)より～

## ④「まちの賑わい」のためにTFP技術は直接応用可!

- ・適切なTFPで, 「中心市街地で歩く来訪者」が, 現実に増える!(甘木, 京都...)

# 今回の議論(そのごく一部 その2)



## ⑤重要課題： 居住者TFPの“歩留まり”の問題

- ・「職場ワンショットTFP」は、一つの完成形ができている(国交省のエコ通勤)
- ・「居住者TFP」については、実は未だ、開発途上！

## ⑥まだまだある, MMの課題

- ・「観光/都市間交通」のモーダルシフト
- ・「大学や病院, 遊園地, 大規模SC」におけるモーダルシフト
- ・「過疎地・中山間地」のMM (例: デマンドバス技術との融合)
- ・「MMを柱とした総合都市交通戦略」の展開
- ・「学校MM」の全国的普及 . . . . .
- ・「自転車」の活用

## ⑦モビリティの「マネジメント組織」の“組織づくり”が大切！

- ・例えば「再生塾」, そして, 「**一般社団法人JCOMM**」の様に, オカネとヒの持続性を考えた, 新しい組織をつくるのが, 一つの答えかも. そういう組織をつくり, それを育てていくことが大切.

おわりに  
～一般社団法人 JCOMM事務局から～

# 事務局からのお知らせとお願い



ー JCOMM発表費を検討しています……是非、アンケートにご協力下さい。

ー パワーポイントファイル等は全て、近日中にHP上に掲載いたします。  
(「JCOMM」で検索してください！)  
是非、それぞれのMMのご参考にしてください。

ー 次回JCOMMでの、  
皆様のお取り組みのご発表・ご応募を、  
お待ちしております！

(また、次年度の“JCOMM参加旅費”のご確保もお願いします！)





2010年  
福山で、お会いしましょう！